

# 集落営農に取り組んでみませんか！

令和5年3月  
東讃農業改良普及センター  
東讃農業改良普及協議会

※集落営農とは、集落の複数の農家が集まって、機械・施設の共同利用や農作業の共同化などにより、農業経営の効率化を図り、農業の継続や集落の農地を守る取り組みです。**みんなで将来に渡って農業が続けられるよう考えてみませんか！**

## 1. あなたの集落は困っていませんか？

東讃地域の状況(農林業センサス2020)



- 10年間で農家戸数が27%も減少
- 10年間で経営耕地面積が22%も減少
- 基幹的農業従事者の平均年齢が71歳を超え、高齢化が進行

## 2. 集落営農のメリット

- ・耕作できない農家やケガなどで作業に困った時の受け皿ができる
- ・農業機械の共同利用により、過剰な投資を抑え、経費の削減が図れる
- ・農業経験の少ない定年帰農者等でも安心して農業に取り組める など

## 3. 集落営農の話し合いの進め方

- ① 集落の将来について話し合う
- ② アンケート等で現状を把握する
- ③ 5～10年後を見据えた集落のビジョンを作成
- ④ 組織体制や機械の共同利用など組織づくりを話し合う
- ⑤ 組織を設立し、集落ビジョンに向けて実践する

## 4. 東讃地域の集落営農組織

令和4年度に新たに4つの組織が設立され、令和5年2月末現在において、102の集落営農組織が活動しています。

### 農事組合法人 つづみ



さぬき市昭和・西地区において農地を守る目的で、令和4年4月に「初音・川東営農集団」から法人化。米麦栽培を中心に引き続き地域の農地の集積・維持を図る。

### 楽農生活営農集団



高松市下田井地区で、農地を守ることを目的に、令和4年10月に認定農業者など担い手の構成員3名で設立。農作業の共同化や作業受託を行い、構成員同士助け合いながら、無理なく農地を守っていく。

### 農業支援グループ大川



さぬき市大川町宗時地区で高齢化等で耕作できなくなった農地の作業委託により保全管理を行っている組織。令和4年7月に設立、構成員4名。

### やまだ農村お助け隊



高松市植田地区で、農地を守ることを目的に、令和5年2月に30～40歳代の構成員3名で設立。高齢化で管理できなくなった地区内の農地を中心に、作業委託で維持管理していく。

まずは普及センターにお気軽にご相談ください！

普及センターでは、JA、市町などと連携して、集落営農の実際(メリット、デメリット)や事例の紹介、集落での話し合いや組織設立の支援を行っています。お気軽にご相談ください。